

生涯学習基盤経営研究 第 XX 号 XXXX 年度

## 論文/研究ノート/資料

## 『生涯学習基盤経営』における論文等の執筆マニュアル

— $\text{\LaTeX}$  バージョン (多言語サンプル: 한국어, 简体中文, 繁體中文) —本郷弥生<sup>†</sup> 東大太郎<sup>††</sup><sup>†</sup> 東京大学大学院教育学研究科 <sup>††</sup> 生涯学習基盤経営学会

この文章は『生涯学習基盤経営』の論文等（論文，研究ノート，資料）のレイアウトを説明した文章です。この文章自体が執筆要領を兼ねておりますので，このファイルをそのまま使用して論文を作成することを推奨します。（多言語サンプル: 한국어, 简体中文, 繁體中文）

キーワード: 生涯学習基盤経営, 執筆要領, レイアウト

## 目次

## 1 はじめに

## 2 原稿について

## 3 全体的なレイアウトについて

- 3.1 段組および字数・行数
- 3.2 文字サイズと字体
- 3.3 句読点

## 4 各構成要素別のレイアウトについて

- 4.1 論文の構成要素
- 4.2 号数, 出版年
- 4.3 和文タイトル
- 4.4 和文著者名
- 4.5 和文著者所属
- 4.6 和文要約
- 4.7 キーワード
- 4.8 目次
- 4.9 本文
  - 4.9.1 章, 節, 項のタイトル
  - 4.9.2 文章・表記など
  - 4.9.3 図, 表
  - 4.9.4 引用
- 4.10 注・文献
  - 4.10.1 図書の場合
  - 4.10.2 翻訳書の場合

4.10.3 編集書の一部（図書形態の  
論文集の一論文を含む）の  
場合

4.10.4 逐次刊行物掲載記事（雑誌  
論文を含む）の場合

4.10.5 Web 上のリソースについて

4.10.6 書誌事項の記載における省  
略語の使用について

## 4.11 文章末の要約情報

4.11.1 作成エリア上の必須環境, 必  
須コマンド

4.11.2 英文タイトル

4.11.3 英文著者名

4.11.4 英文所属

4.11.5 英文要約

4.11.6 英文キーワード

## 1 はじめに

この文章は『生涯学習基盤経営』の論文等（論文，研究ノート，資料）のレイアウトを説明した文章です。この文章自体が執筆要領を兼ねております。このファイルをそのまま使用して論文を作成することを推奨します。本稿をよくお読みいただき，原稿を作成して下さい。

なお，このファイルでは $\text{\LaTeX}$ のレイアウトが記載されています。Microsoft Word<sup>®</sup>（以下，Word）のレイアウト規定を確認されたい場合には，Wordのテンプレートファイルをご参照下さい。なお，

本要領は情報メディア学会の執筆要項ファイルを参照しました<sup>1</sup>。

L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X のテンプレートファイルを使用する場合にはスタイルファイルとフォントファイルが必要です。

テンプレートファイルのアーカイブにスタイルファイルが同封してあります。テンプレートファイルと同じディレクトリに設置するか、L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X のスタイルファイル格納場所（環境によって異なります）に設置して利用してください。現在のスタイルファイル名は l1ls.sty です。

現在のスタイルファイルではフォントに Noto CJK を採用しています。下記 URL から「OpenType/CFF Collection (OTC)」カテゴリ下にあるファイルを全てダウンロードし、インストールしてください（Windows の場合、フォントのインストールには「自分用」と「全ユーザ用」の2つの方法がありますが、TeX でも使えるようにするにはフォントを「全ユーザ用」でインストールする必要があります）。

<https://www.google.com/get/noto/help/cjk/>

インストールが完了したら、下記コマンドでフォントが TeX から見える状態にあるかどうかを確認しましょう。フォントのパスが表示されたら準備完了です。

```
kpsewhich NotoSerifCJK-Regular.ttc
kpsewhich NotoSansCJK-Black.ttc
```

フォントの設定には pxchfon パッケージを使用しています。設定が上手くいかない場合はパッケージのマニュアルを読むことをおすすめします。

L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X の原稿執筆には環境、並びにコマンドを使用します。本テンプレートファイルにおいて、環境とは `\begin{**}` で始まり、`\end{**}` で閉じる命令のことを指し、コマンドとは `\textit{**}` のように、引数を伴う命令のことを指します。またコマンドによっては引数を複数取ることがあります。例えば紀要の号数と出版年を記入する `\volttitle` コマンドは

```
\volttitle{35}{2010}
```

と2つの引数を取ります。本マニュアルでは、この2つの引数をコマンドの左側からそれぞれ、第1引数、第2引数と呼ぶこととします。

テンプレートファイルのアーカイブには、`latexmk` の設定ファイルである `.latexmkrc` も同封されています。`latexmk` は文書を作成する際に必要な回数分のタイプセットを自動で行ってくれるツールです。コマンドラインで

```
latexmk l1ls_bulletin_template.tex
```

などと打つとコンパイルが実行され、PDF が生成されます。`-pvc` オプションをつけるとコンパイル終了後、設定ファイルの `$pdf_previewer` で指定したツールで PDF をプレビューできます。その後もファイルの変更を検知したら再度コンパイルを実行してくれるため非常に便利です。ぜひ活用しましょう。

## 2 原稿について

A4 版を使用し、原則として投稿段階から L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X あるいは Microsoft 社の Word によって、原稿を作成してください。作成の際には、必ずテンプレートファイルに基づき、印刷原稿にトンボが適切に出力されるように、作成して下さい（紀要は B5 サイズで印刷されます）。

## 3 全体的なレイアウトについて

### 3.1 段組および字数・行数

本文に先行するヘッダーの部分（論文等タイトル、著者氏名、要約）および、英文要約については一段組で、本文については二段組1行22字で、縦は44行程度で設定してください。L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X の場合、本テンプレートの使用により、同等の出力が得られます。

### 3.2 文字サイズと字体

L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X の文字サイズについては、スタイルファイルである `l1ls.sty` によって定義されていますので、著者側で文字サイズの変更等は行わないで下さい。書体については、日本語は、論文等タイトルおよび章、節のタイトルでは、ゴシック体を使用し、それ以外については明朝体を使用して下さい。英語についてはローマン体を使用して下さい。（デフォルトの設定でこれらの字体が使われますので通常、特に意識する必要はありません。）

### 3.3 句読点

句読点は、日本語では、句点として“。”、読点として“、”をそれぞれ用います。英語については

半角のピリオドと半角スペース、読点は半角のカンマ並びに半角スペースを使用してください。

## 4 各構成要素別のレイアウトについて

### 4.1 論文の構成要素

日本語論文等の構成要素、並びに順序は次の通りです。

- 1 号数, 出版年
- 2 和文タイトル (およびサブタイトル)
- 3 和文著者名
- 4 和文著者所属
- 5 和文要約 (300–400 字)
- 6 和文キーワード (3 語程度を著者で付与)
- 7 目次
- 8 本文 (文末注を含む)
- 9 文章末の要約情報
  - 9.1 英文タイトル (およびサブタイトル)
  - 9.2 英文著者名
  - 9.3 英文著者所属
  - 9.4 英文要約 (100–150 words)
  - 9.5 英文キーワード (3 語程度を著者で付与)

英語論文等の構成要素は次の通りです。

- 1 号数, 出版年
- 2 英文タイトル (およびサブタイトル)
- 3 英文著者名
- 4 英文著者所属
- 5 英文要約 (100–150 words)
- 6 英文キーワード (3 語程度を著者で付与)
- 7 目次
- 8 本文 (文末注を含む)
- 9 文章末の要約情報
  - 9.1 和文タイトル (およびサブタイトル)
  - 9.2 和文著者名
  - 9.3 和文著者所属
  - 9.4 和文要約 (300–400 字)
  - 9.5 和文キーワード (3 語程度を著者で付与)

なお、本テンプレートで英語論文を執筆する場合は、テンプレートファイル冒頭 (6 行目周辺) の説明を参照し、英文向けの組版設定に切り替えてください。

### 4.2 号数, 出版年

紀要の号数並びに出版年を記入します。

`\volttitle{}` コマンドの中に、投稿する号に合わせて “号数” と “出版年” を記入します。コマンドの第 1 引数には “号数” を半角のアラビア数字で、第 2 引数には “出版年” を西暦かつ半角のアラビア数字で記入してください。例えば、2010 年度の 35 号であれば、

```
\volttitle{35}{2010}
```

と入力してください。

### 4.3 和文タイトル

論文のタイトルを日本語で記入します。`\jtitle{}` コマンドの第 1 引数にタイトル (主題) を記入してください。サブタイトル (副題) を記入する場合は第 2 引数に記入します。サブタイトルを付与しない場合には第 2 引数は “{}” の状態 (空の状態) にします。

```
\jtitle{タイトル}{サブタイトル}
```

### 4.4 和文著者名

論題に対応する和文著者名を記入します。`authors` 環境の中に、`\name` コマンドが含まれています。コマンドの引数は第 1 引数に何番目の著者かを記入し、第 2 引数には著者名を記入します。また、`\name` コマンドを書いた数だけ、著者名と対応する記号が付与されるようになっています。姓と名のあいだはスペースを空けずに入力してください。

テンプレートファイル上では、著者が 2 名存在する場合のサンプルを記入しています。著者が 1 名の場合には、`\name` コマンドの `\name{2}{}` 以降を削除し `\name{1}{}` の部分だけを使用してください。著者が 3 名以上いる場合には、`\name` コマンドを著者の人数分増やして、順序に応じて `\name` コマンドの最初の引数を変更して使用してください。例えば、3 人の場合には以下ようになります。

```
\begin{authors}
  \name{1}{本郷弥生}
  \name{2}{東大太郎}
  \name{3}{柏駒場}
\end{authors}
```

本テンプレートファイルでは著者名を5つまで記入することができます。著者名欄が6つ以上必要な場合は、スタイルファイルの改変が必要ですので、事前にご連絡下さい。

4.5 和文著者所属

著者に対応する和文所属を記入します。`\affiliation` 環境の中に、`\aff` コマンドが含まれています。コマンドの引数は第1引数に所属の記述順（`\name` コマンドの第1引数と対応させてください）を記入し、第2引数には所属の英文名を記入します。

テンプレートファイル上では、著者が2名存在する場合のサンプルを記入しています。もし、著者が1名の場合には、`\aff` コマンドの`{2}`以降を削除し`\name{1}`の部分だけを使用してください。第3著者以降がいる場合には、`\aff` コマンドを著者の人数分増やして、順序に応じて`\aff` コマンドの最初の引数を変更して使用してください。例えば、3人の場合には以下ようになります。

```
\begin{affiliation}
  \aff{1}{東京大学大学院教育学研究科}
  \aff{2}{生涯学習基盤経営学会}
  \aff{3}{その他組織}
\end{affiliation}
```

本テンプレートファイルでは所属を5つまで記入することができます。所属欄が6つ以上必要な場合は、スタイルファイルの改変が必要ですので、事前にご連絡下さい。

4.6 和文要約

論文等の要約を記入します。`abstract` 環境の間に **300 字から 400 字で**、記載してください。要約の中では任意の改行コマンド（`\\`）の使用や、段落変えは行わないようにしてください。例えば、次のように入力します。

```
\begin{abstract}
  この文章は『生涯学習基盤経営』の論文等（論文、研究ノート、資料）のレイアウトを説明した文章です。この文章自体が執筆要領を兼ねておりますので、このファイルをそのまま使用して論文を作成することを推奨します。
\end{abstract}
```

4.7 キーワード

論文等に付与するキーワードを **3 語程度** 記入します。`keyword` 環境の中にの間に “キーワード：” と記載してから、入力してください。キーワード間の区切りは半角のカンマと半角のスペース 1 文字入力してください。

```
\begin{keyword}
  キーワード：生涯学習基盤経営，執筆要領，レイアウト
\end{keyword}
```

なお、巻末の英文要約作成エリアにも `keyword` 環境がありますが、書式が異なりますので、混同しないように注意してください。

4.8 目次

目次については、`\tableofcontents` コマンドにより、自動的に作成されます。

4.9 本文

本文は、`\tableofcontents` コマンドの直後にある `\bigskip` コマンドの次の行から入力していただく。

4.9.1 章、節、項のタイトル

本文中の章、節、項はそれぞれ `\section`、`\subsection`、`\subsubsection` コマンドを使用してください。

4.9.2 文章・表記など

文章は原則として常用漢字と現代仮名遣いを用いてください。なお、以下の記号については特定の用法で使ってください。

表 1: 特定の記号の用法	
記号	用法
( )	説明・その他付加的に記述する事柄
“ ”	引用箇所の表示
<i>Italic</i>	文中における欧文の書名・誌名
『 』	文中における和文の書名・誌名
「 」	文中における和文の政策文書

4.9.3 図、表

図、表は本文中の適当な箇所に挿入してください。なお、図表は一つあたり 400 字あるいは 200 ワード換算で数え、原稿の分量に加算します。

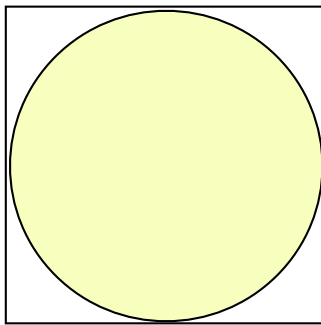


図 1: 小さな図の例

(1) 図について

**小さな図の場合** 下記のように、figure 環境、includegraphics コマンド、caption コマンドを使用し、図と図の下部に対応する caption が設定されるようにしてください。

```
\begin{figure}[tb]
  \centering
  \includegraphics[width=120pt]{test.eps}
  \caption{小さな図の例}
\end{figure}
```

**大きな図の場合** 段をまたぐような大きな図を使用したい場合は、「小さな図の場合」で用いた figure 環境の代わりに、figure\*環境を利用します。その上で、\includegraphics コマンド、\caption コマンドを使用し、図と図の下部に対応する caption が設定されるようにしてください。

```
\begin{figure*}[tb]
  \centering
  \includegraphics[width=200pt]{test.eps}
  \caption{大きな図の例}
\end{figure*}
```

(2) 表について

**小さな表の場合** 下記のように、table 環境と tabular 環境、\caption コマンドを使用し、表の上部に対応する caption を設定してください。罫線には booktabs パッケージの toprule/midrule/bottomrule を使用します。

```
\begin{table}[tb]
  \centering
```

表 2: 小さな表の例

日本語	英語
教授	professor
大学院生	graduate student
学部生	undergraduate

```
\caption{小さな表の例}
\begin{tabular}{cc}
  \toprule
  日本語 & 英語 \\
  \midrule
  教授 & professor \\
  大学院生 & graduate student \\
  学部生 & undergraduate \\
  \bottomrule
\end{tabular}
\end{table}
```

**大きな表の場合** 段をまたぐような大きな表を使用したい場合は、「小さな表の場合」で用いた table 環境の代わりに、table\*環境を利用します。その上で、tabular 環境、\caption コマンドを使用し、表と表の上部に対応する caption が設定されるようにしてください。

```
\begin{table*}[tb]
  \centering
  \caption{大きな表の例}
  \begin{tabular}{cc}
    \toprule
    日本語 & 英語 \\
    \midrule
    教授 & professor \\
    大学院生 & graduate student \\
    学部生 & undergraduate \\
    \bottomrule
  \end{tabular}
\end{table*}
```

4.9.4 引用

本文中に他の文献からの引用を含める場合には、引用符 “ ” を用いて記述してください。1 文（ないし数文）からなるような比較的短い文章を引用

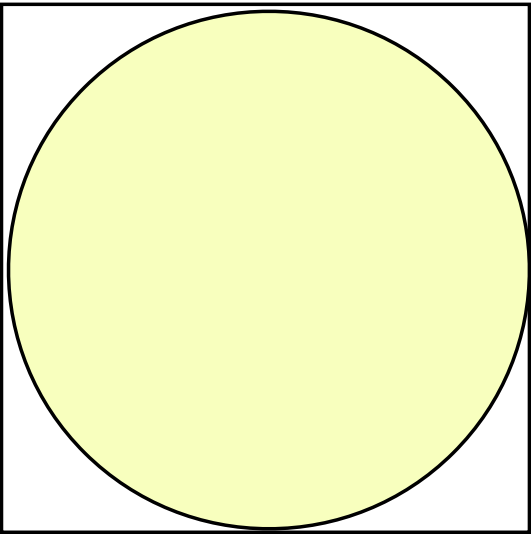


図 2: 大きな図の例

表 3: 大きな表の例

日本語	英語
教授	professor
大学院生	graduate student
学部生	undergraduate

する場合、`quote` 環境を用いることも可能です。引用文が長く、独立した段落として表示する必要がある場合には、`quotation` 環境を用いてください。いずれの引用方法でも、末尾に`\footnote` コマンドで、出典を記載してください。引用箇所には省略部分がある場合は「(中略)」という表記を用いてください。出典の記述方法については、4.10 の「注・文献」を参考にしてください。なお、引用した文書に番号を振る場合、閉引用符の後ろに付してください（例えば、“～である”X。）。出典の記述方法については、4.10 の「注・文献」を参考にしてください。

**例 1 (引用符使用)**

澤田昭夫はよい論文について“よい論文は統一unity, 連関 coherence, 展開 development において優れた論文あるいは明確性 clarity において優れた論文”<sup>2</sup> であると述べている。

**例 2 (quotation 環境使用)**

澤田は論文執筆の際に次のようなことが重要だと述べている。

論文書きでもっとも大切なのは、問を

疑問文の形で切り出すことで、それがレトリックで言う発見・構想です。もっとも大切だというのは、それができればつまり全体を貫く主な問が何であるかを確定することができれば、論文の首尾一貫性、統一性を保証する基本的条件が整ったことになるからです。

そのつぎに大切なのは、論文の構成、材料の配置です。その際、肝に銘じなければならないのは、構成・配置の大原則は起承転結ではなく、序・本・結（序と本論と結び）だということです<sup>3</sup>。

**4.10 注・文献**

本テンプレートファイルでは、注および文献については`\footnote` コマンドを使用し、全て文末に記載します。ページごとの注（脚注）及び独立した節としての参考文献リスト（`bibitem`, `bibtex` を使った記述）は用いません。注・文献における文献の記載方法は次の例に従ってください<sup>4</sup>。なお、記載方法の中で、`{}` で囲まれた項目の記述は任意です。例えば、図書の場合は“版表示”，“出

版地”，“総ページ数”が任意の記述項目です。

注・文献において同一の著者が複数回出現する場合，2回目以降は著者の姓を記述するのみで構いませんが，同姓の著者が他にいる場合は常にフルネームで記述してください。

著者名と書名・論文名の間には半角スペースを挿入してください。

#### 4.10.1 図書の場合

和：著編者名『書名』{版表示,}{出版地,}出版社,出版年,{総ページ数,}当該部分のページ。

洋：author. *title*. {edition,} place of publication, publisher, year, {total page,} page.

近藤二郎『社会科学のための数学入門』  
東京経済新報社, 1973, p. 37–40.

Barzun, Jacques and Graff, H. F. *The Modern Researcher*. Rev. ed.,  
New York, Harcourt, 1970, p. 165.

#### 4.10.2 翻訳書の場合

和：著編者名『書名』[原書名(イタリック体){版表示,}{出版地,}出版社,出版年,] 翻訳者名, 出版社, 出版年, {総ページ数,} 当該部分のページ。

洋：author. *title of translation*. [*original title*. {edition,} place of publication, publisher, year,] tr. by translator, place of publication, publisher, year, {total page,} page.

Varles, Jana ed.『情報の要求と探索』  
[*Information Seeking: Basing Services on User's Behaviors*. North Calolina, McFarland & Company, 1987] 池谷のぞみ, 市古健次, 白石英理子, 田村俊作訳,  
勁草書房, 1993, p. 10.

Schneider, Georg. *Theory and History of Bibliography*. [*Handbuch der Bibliographie*. Aufl., Berlin, Knapf, 1978,] tr. by R. R. Shaw, New York, Columbia University Press, 1934, p. 14–15.

#### 4.10.3 編集書の一部(図書形態の論文集の一論文を含む)の場合

和：当該部分の執筆者名“当該部分の題名”〈編者名『書名』{版表示,}{出版地,}出版社,出版

年〉{総ページ数,}当該部分のページ。

洋：author. “*title*,” in editor. *book title*, {edition,} place of publication, publisher, year, {total page,} page.

宮坂広作 “余暇と社会教育” 〈碓井正久編著『社会教育』第一法規, 1970〉  
p. 201–203.

Groom, Geoffrey. “*Bibliography of older material*,” in Garvin, L. H. ed. *Printed Reference Material*. 2nd ed., London, Library Association, 1984, p. 456–501.

#### 4.10.4 逐次刊行物掲載記事(雑誌論文を含む)の場合

和：執筆者名“論題名”『掲載逐次刊行物名』vol. XX, {no. XX,} 発行年{月}, 当該部分のページ。

洋：author. “*title*,” *name of periodical*, vol. XX, {no. xx,} year {month}, page.

小野寺夏生 “‘Bibliostatistics’: 情報現象の統計学的説明”『情報管理』vol. 21, no. 10, 1979, p. 782–802.

小野寺夏生, 中井浩 “単純なモデルからの Zipf の法則の導入”『情報科学技術研究集会論文集』vol. 33, no. 3, 1977, p. 129–138.

Brookes, Bertram C. “Theory of the Bradford Laws,” *Journal of Documentation*, vol. 33, no. 3, 1977, p. 180–209.

Nelson, Micheal J. and Tague, Jean M. “Sprit Size-Rank Models for the Distribution of Index Terms,” *Journal of the American Society for Information Science*, vol. 36, no. 5, 1985, p. 283–296.

#### 4.10.5 Web 上のリソースについて

Web 上のリソースについては，書誌情報の最後に入手先 URL とアクセスした日付を記入します。書式は“入手先 URL: <http://www.p.u-tokyo.ac.jp/> (アクセス日: 2008-10-27)”または“(available from <http://www.p.u-tokyo.ac.jp/> (accessed date: 2008-10-27))”を記入します。それ以外の項目は図書並びに逐次刊行物掲載記事の規定に準じ，

入手先の情報から明らかである項目を記述します。  
URL の記述には `\url` コマンドを使ってください。

情報メディア学会 “『情報メディア研究』への各種原稿の投稿について” 入手先 URL: `http://www.jsims.jp/toko.html` (アクセス日: 2008-10-27)

#### 4.10.6 書誌事項の記載における省略語の使用について

同一文献を二度以上引用する場合は、和文文献、欧文文献どちらの場合でも、イタリック体 (`\textit` コマンド) で *op. cit.*, *Ibid.*, *loc. cit.* を用います。前掲文献を参照する場合は *op. cit.* を使用してください。その場合、*“name, op. cit., (year,) p. X”* のように記載します。また、*op* の直後のピリオドと *cit* の間の空白を単語間スペースとして明示するため、バックスラッシュを用いて *op.\ cit.* のように記述してください。上掲文献を参照する場合は、*Ibid.* を使用してください。本文末注 3 の使用例を参照してください。上掲文献を参照し、且つ参照部分のページが同一の場合は *loc. cit.* を使用してください。この場合、ページ番号を記載する必要はなくなります。バックスラッシュを用いて *loc.\ cit.* のように記述してください。

#### 4.11 文章末の要約情報

論文等の最後には、改ページを行った後、本文を記述した言語以外のタイトル、著者名、所属、要約、キーワード情報を記載します。本文を日本語で作成した場合は、英文の情報を、本文を英文で記述した場合は、日本語の情報を記載することになります。

L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X の場合には、テンプレートファイルの最後に英文要約作成エリアが用意されています。テンプレートファイル上では、

```
%-----
%英文要約作成用エリア (\eauthors,
%\eaffiliation, \etitle,
%\abstract, \keyword の欄を書き換えて使う)
%-----
```

と記述されている部分から下のコードが該当します。

##### 4.11.1 作成エリア上の必須環境、必須コマンド

まず、作成エリア直後のおよび末尾の以下のコマンドは、文章整形のために必要な記述ですので、

削除しないでください。

```
\newpage
\twocolumn[
  \begin{center}
    .....
  \end{center}
]
```

##### 4.11.2 英文タイトル

論題に対応する英文タイトルを記入します。`\etitle` コマンドの引数に対応するタイトルを記入してください。タイトルには sentence case を用いてください。文頭の単語と文中の固有名詞の先頭のみを大文字とする書き方です。

```
\etitle{Manual of writing a manuscript
for articles, research notes, and
materials in \textit{Studies in Lifelong
Learning Infrastructure Management}}
```

##### 4.11.3 英文著者名

英語で著者名を名姓の順で記入します (名は頭文字のみ大文字、姓は全て大文字)。`\eauthors` 環境の中に、`\name` コマンドが含まれています。コマンドの引数は第 1 引数に何番目の著者かを記入し、第 2 引数には著者名を記入します。また、`\name` コマンドを書いた数だけ、著者名と対応する記号が付与されるようになっています。

テンプレートファイル上では、著者が 2 名存在する場合のサンプルを記入しています。著者が 1 名の場合には、`\name` コマンドの `{2}` 以降を削除し `\name{1}` の部分だけを使用してください。著者が 3 名以上いる場合には、`\name` コマンドを著者の人数分増やして、順序に応じて `\name` コマンドの最初の引数を変更して使用してください。例えば、3 人の場合には以下ようになります。

```
\begin{eauthors}
  \name{1}{Yayoi HONGO}
  \name{2}{Tarou TOUDAI}
  \name{3}{Komaba KASHIWA}
\end{eauthors}
```

本テンプレートファイルでは著者名を 5 つまで記入することができます。著者名欄が 6 つ以上必要な場合は、スタイルファイルの改変が必要ですので、事前にご連絡下さい。



#### 4.11.4 英文所属

著者に対応する英文所属を記入します。`\eaffiliation` 環境の中に、`\eaff` コマンドが含まれています。コマンドの引数は第1引数に所属の記述順（`\name` コマンドの第1引数と対応させてください）を記入し、第2引数には所属の英文名を記入します。

テンプレートファイル上では、著者が2名存在する場合のサンプルを記入しています。もし、著者が1名の場合には、`\eaff` コマンドの`{2}`以降を削除し`\name{1}`の部分だけを使用してください。第3著者以降がいる場合には、`\eaff` コマンドを著者の人数分増やして、順序に応じて`\eaff` コマンドの最初の引数を変更して使用してください。例えば、3人の場合には以下ようになります。

```
\begin{eaffiliation}
  \eaff{1}{Graduate School of Education,
    the University of Tokyo}
  \eaff{2}{Society for Lifelong Learning
    Infrastructure Management}
  \eaff{3}{Another Organization}
\end{eaffiliation}
```

本テンプレートファイルでは所属を5つまで記入することができます。所属欄が6つ以上必要な場合は、スタイルファイルの改変が必要ですので、事前にご連絡下さい。

なお、「東京大学大学院教育学研究科」の英文所属は“Graduate School of Education, the University of Tokyo”で統一するようお願いいたします。

#### 4.11.5 英文要約

論文の内容に対する要約を英文で記入します。下記のサンプルのように、`eabstract` 環境の中に要約を **100 語から 150 語** で記入してください。

```
\begin{eabstract}
  The paper describes style and layout of
  manuscripts in the Studies in \textit{
    Lifelong Learning Infrastructure
    Management}.
  You can use directly this
  file when you make your manuscript.
\end{eabstract}
```

#### 4.11.6 英文キーワード

論文の内容に対するキーワードを記入します。下記のように、`keyword` 環境の中に適切なキーワードを英語で **3 つ程度** 記入してください。文中の冠詞と前置詞と接続詞を除いて、各語の先頭は大文字とします。

```
\begin{keyword}
  Keywords: Studies in Lifelong Learning
  Infrastructure Management,
  Script Manual, Layout
\end{keyword}
```

#### Notes

- 1) 情報メディア学会 “『情報メディア研究』への各種原稿の投稿について” 入手先 URL:<http://www.jsims.jp/toko.html> (2008-10-27 参照)
- 2) 澤田昭夫『論文のレトリック』講談社, 1983, 330p, p. 19.
- 3) *Ibid.* p. 74
- 4) 特に、ページ番号には En dash ( – ; L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 上ではハイフン 2 個 -- で出力できる) を必ず用いるようにし、ページ番号を意味する符号としての “p.” と数字の間には non-breaking space ~ を使いましょう。

# Manual of Writing a Manuscript for Articles, Research Notes, and Materials in *Studies in Lifelong Learning Infrastructure Management*

Yayoi HONGO <sup>†</sup> Tarou TOUDAI <sup>††</sup>

<sup>†</sup> Graduate School of Education, the University of Tokyo

<sup>††</sup> Society for Lifelong Learning Infrastructure Management

The paper describes style and layout of manuscripts in *the Studies in Lifelong Learning Infrastructure Management*. You can use directly this file when you make your manuscript.

Keywords: Studies in Lifelong Learning Infrastructure Management, Script Manual, Layout